

部局名

農学部 フィールド科学教育研究センター(木花)

担当:松尾 光弘



テーマ

たかが“雑草”、されど“雑草”



最近では外来雑草が日本全国各地の農耕地で大問題となっており、九州でも同じような状況が見られます。しかし、外来雑草の生態や防除方法などの情報が国内にはないため、それぞれの雑草の生態を解明しつつ、どのように効率的に防除するか、その技術を開発する研究が必要となります。

九州の国立大学農学部において農業分野での雑草に関わる唯一の研究室として、除草に対する農家の苦労を少しでも軽減するための研究を進めています。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-fsce/post-28.html>



本来は大豆の畑なのだが・・・

本来であれば大豆のみの畑（右下）となるはずなのだが、一面の雑草畑に。

こうした畑ではダイズの収穫ができないので放棄され、また開花して結実すると種子が落下して翌年の発生源にもなるために、早急な防除技術の確立が必要となる。



九州に見られるツユクサ属雑草

ツユクサ（左端）はよく知られているが、よく似たツユクサ属雑草が九州では見られる。認知度が低いために“ツユクサ”にひとくくりされる。



マルバツユクサの白くて丸い地中花（閉鎖花）

地上だけでなく地中でも花芽を形成して種子を結実する生態は「2種結実性」といわれ、世界でも36種類の植物にしか見られない。